

もう、悩まない！『石原健のHOTEL LOVERS』

～異なる業態が同じ目的のために1つになるビジネスモデルが地域存続の一つの鍵握る～

青森・大鰐温泉活性化に向け、
工務店と旅館業の二刀流に挑戦

桜の名所として知られる青森県弘前市から車で約30分。三方を山々に囲まれ、津軽の奥座敷として800年以上の歴史を誇る湯の里「大鰐（おおわに）温泉」。歴史ある地で明治5年創業、現在の建物は明治30年に建てられたもので大鰐温泉の中で最も古く、登録有形文化財にも登録されているのが「ヤマニ仙遊館」だ。明治天皇や文豪・太宰治も訪れたという。ホテル開業準備室のとき、建築企画部に配属されたことを機に建築に興味を持ち工務店を立ち上げるとともに、2019年、今年創業151年目を迎えた旅館「ヤマニ仙遊館」の当主に就任、まさに二刀流で切り盛りしている菊池啓介氏に新たな取り組みや今後についてお話を伺った。



大鰐温泉ヤマニ仙遊館
当主
菊池 啓介氏

〒038-0212 青森県南津軽郡大鰐町蔵館村岡47-1
URL: <https://senyukan.com/>

〈プロフィール〉帝京大学経済学部卒業後、1989年ヨコハマ グランド インターコンチネンタル ホテル（開業準備室）入社。研修期間として建築企画部に配属後、セールス&マーケティング部異動（最終、セールス アシスタントマネージャー兼任）。その後、地元青森に帰省し、弘前市にて一部上場ハウスメーカーに9年間在籍。現場経験を経て、弘前市内で工務店を立ち上げ、現在も継続。創業18年に達する。2019年、家業の仙遊館を4年間の休業期間を経て再度、営業開始。現在、工務店と旅館業の二刀流経営に挑む。

青森に帰って旅館業を継ぐ意識なくホテルマンに

石原 菊池社長とはヨコハマ グランド イ

ンターコンチネンタル ホテルの同期で、1989年の開業準備室時代からのお付き合いになります。実家は青森温泉で歴史ある旅館業を営まれており、現在、当主として再営業を実現されました。途中、大手ハウスメーカーを経験されましたが、もともと、最終的には家業を継ぐという意識をお持ちだったのですか。

菊池 大学1年の冬に苗場プリンスホテルで2カ月間、レストランでアルバイトをしたことがホテル業と出会う初めての経験でした。その後、新高輪プリンスホテルの「飛天の間」で宴会サービスをしていたときに、ホテルの営業の方が主催者をアテンドする姿を見て、「かっこいいなあ」とあこがれたのがきっかけです。「あの仕事をしたい」と思い、ちょうど開業前のホテルの募集案内を見つけ、ヨコハマ グランド インターコンチネンタル ホテルに採用いただきました。当時は青森に帰って旅館を継ぐという考えはまったくなく、ホテルの世界で見聞を広め、将来は何かをやりたいという意識はありましたね。

石原 ところでホテルマン時代の思い出として浮かぶのはどのようなことですか。

菊池 話題性あるホテルだったため、企業インセンティブイベントの担当をさせていただくことができ、さまざまなシーンが思い出されますね。中でも女子オープンゴルフの前夜祭で、それぞれちがう天心の屋台を10台以上、チャイナドレスのパーティーコンパニオン50名の提案が採用され、実現したときのシーンは今でも鮮明に覚え

ています。今のようにスマートフォンがあれば写真撮りたかったですね。

地元で身を固める基盤を作ろうと、
30歳前に帰省

石原 開業当初はみなとみらいエリアで初のホテルとして注目され、本当に華やかな良き時代でしたね。ところがホテル業を経験された後に、大手ハウスメーカーに転職されましたね。なぜ、建築業界に転職を決められたのですか。

菊池 開業準備室のとき、建築企画部に配属され、ハードにとっても興味を感じていたことと、旅館業を継ぐということではなく、やっぱり実家の旅館の将来を何とかしようという思いがあり、そのためには地元で身を固める基盤を作ろうと、30歳前に帰省しました。また地元で地に足をつけたことをするためには不動産や法規の習得も必要であると考え、そうこうしているうちに9年後に独立して工務店を立ち上げるようになったのです。

その時点でも旅館は小規模ながら母ががんばって切り盛りしていましたので、たまに手伝いはしても旅館を継ぐという意識はありませんでした。母も旅館を継いでほしいということも言わず、私は工務店の過酷な営業活動のかたわら、母親の気力が徐々に衰えていく様子を見つつ、地元の観光協会の活動にも参加しながら、地域の観光全体を何とか維持していかなければならない、そのためにはこれまで



自分が見てきたことを活かさなければならぬと思い、旅館4年間の休業を経て、母に代わって営業を再開することになったのです。

旅館業リセット期間にと
登録有形文化財認可

石原 なぜ、4年間の休業期間を設けたのですか。

菊池 父は公務員で教師でしたので、実質母一人で旅館業を切り盛りしていました。長年、明けても暮れても旅館ひと筋でしたのでその経験値は素晴らしいものですが、そのまま引き継ぐことにより母との考えの相違からぶつかり合ってしまうと考えたのです。そこで必要なリセット期間を設定することにしました。この間に、旅館を継続させていくためには歴史ある建築物という財産を生かした新たな一歩を踏み出したいと思い、地元自治体の理解も得て「登録有形文化財」として文化庁に申請し、登録認可を得ることができたのです。重要文化財と異なるのは登録後の改修について許可が緩いなど運営のしやすさです。

石原 私も先日、ヤマニ仙遊館にお伺いしたのですが、太宰治や森鷗外の師としても知られる漢文学者の依田学海など、多くの文人に親しまれ、そのままにお部屋も残され、今も当時のままの部屋に宿

泊することができますね。またリニューアルオープンされた大正レトロ風呂「浪漫的の泉」もとてもステキでした。

菊池 2022年に創業150年目を迎え、男女浴場を大正～昭和初期に後藤新平や太宰治がご入浴されたころの当館浴場撮影の葉書を参考に現代風に再現工事いたしました。明治の終わりから大正にかけて多く生産された「マジヨリカマイル」を施し、大正レトロ感を作り出したのです。温泉を改装した背景には青森県で宿泊施設を探している方のGoogle検索データを見ると、半数が「青森県／温泉」で探していたことに起因します。まずは旅館の歴史を背景にした特徴ある温泉を作り出すことが必要であると考えたのです。また朝食も奇をてらうのではなく、地元で食べている素朴な料理を「津軽のカッチャおかず」としてご提供しています。カッチャとは津軽弁で「かあさん」「おばちゃん」のことです。

スタッフも旅館はアルバイト15名、工務店は社員1名であとは現場スタッフで運営しています。私自身、指導や管理に傾注することなく、職場のチームワークが自然と育つように意識しています。ホテルマン時代にエージェンチ担当していたとき、ホテルと旅行代理店との微妙な関係性や付き合い方をご指導いただいた元ホテルインターコンチネンタル東京ベイ営業部長の黒崎雅明氏に、自然と溶け込んでいく「のらくらしたつき合い方」を教えてくださいました。私にとっての師匠であり、その教えが工務店や旅館スタッフとの関わり合い方

に生かされているのだと思います。

コラボレーション行ない、
町全体が一つのホテルに

石原 最後に今後も工務店と旅館業、二刀流を継続されていくのか、そして未来に向けてどのような構想をお持ちなのか、お聞かせください。

菊池 地方は少子高齢化が著しく進行し、廃業施設や空き家の問題と人材不足が深刻な縮小社会です。現状をどう求められるのは異なる業態が同じ目的のために1つになるビジネスモデルで、それが地域存続の一つの鍵を握るようになると思っています。そのために大規模な建設工事よりも細かいリノベーション工事を併用した商業施設やホテル・旅館が求められることでしょうか。これから先、私が求めているのは東京都谷中のような空き家をリノベーションしたゲストハウスで街全体をホテルとした取り組みや、小菅村のような複数の古民家をリノベーションして村全体を一つのホテルとした取り組みです。事例をお手本に自分の旅館も地域の旅館や飲食店などとコラボレーションを行ない、町全体が一つのホテルという位置づけに成長させていきたい、そのためにも工務店と旅館業の二刀流を継続させていかなければという思いです。

石原 ホテルマン、ハウスメーカー、工務店で得たさまざまな経験を背景に、二刀流の続行とともにその思いをぜひ、実現させてください。期待しています。

(株)ホスピタリティ デザイン 横浜
代表取締役 石原 健氏



URL: <https://www.hospdy.com/>

〈プロフィール〉桜美林大学経済学部卒業／日本ホテルスクール卒業／ホテル産業経営塾卒塾（第一期生）。ホテル センチュリー ハイアット（現ハイアットリジェンシー東京）で4年のキャリアを積み、1989（平成元）年、ヨコハマ グランド インターコンチネンタル ホテルの開業準備室に、第1期生として入社。開業後は主にセールスとして活動。39歳で販売担当部長となり、宿泊、宴会、婚礼、レストラン、イベント等の全ての販売を行なう。国内外からのVIPに対するおもてなしを行ない、4度にわたる皇室接遇担当の栄誉も授かる。また横浜青年会議所（JCI）のメンバーとしても活動し、2004年には100%出席賞を受賞。東日本大震災後、ウェスティンホテル仙台へ赴任、セールス&マーケティング部長として、総支配人の不在時には代行も務め、3年2カ月間復興支援の一端を担う。2014（平成26）年、(株)ホスピタリティ デザイン 横浜を設立、代表取締役役に就任。現在に至る。厚生労働省 事業検討会委員、ホスピタリティ教育研究会 会長、HSN（ホテルセールスネットワーク）会顧問、産業能率大学 兼任教員など、宿泊・サービス業界団体や学校、企業などで活躍中。